

中学校の実践事例

花育実践者マニュアル小委員会 委員
神奈川県 小田原市立泉中学校 教頭 石塚 英雄

1 学校ホームページで校地内の四季の草花紹介実践(小田原市立泉中学校)

日本は四季折々に様々な顔を見せるが、その主役というのが植物である。校庭とは学校の敷地内をさすが、花壇以外の空き地にも様々な植物が、季節の移ろいを演出している。校庭環境の重要な一員である様々な草花を学校ホームページで紹介することにより、この時期にはこんな草花が校地に咲いているとか、その美しさをたくさんの方々に知ってもらいたいと思い、草花にカメラを向けている。また、花壇に植えてある植物の名前についても、プレート表示はしないがこのホームページに掲載するようにしている。

実際、校庭に出て植物を手にとると、目立つ花、目立たない花、変な形の花、色鮮やかな実など実に多様なことに気付く。自然は多彩な芸術品であふれているのである。

そして、その様々な形には全て意味がある。花に関する自然現象について、一体どれほど私たちは知っているのだろうか。地球の歴史の中で、数え切れないほどの多数の植物種が生まれて来たことが、まず驚きであるし、分類学上は同じ花でも、色、形、大きさ、香り、咲き方などは千差万別である。一体、どうしてこのような幅広いバリエーションが作られたのか、何がそれを決めているのか、分からないことはたくさんある。花を見るたびに、自然の不思議さと生物進化の驚異を感じないわけにはいかない。

名前の分からない植物を手にして、その名前を知ろうとするとけっこう難しいものである。図鑑やインターネット上で絵合わせしても正しい解答が得られることは珍しいかもしれない。しかし、花の季節や花の色、葉のつき方などの特徴から少しずつ絞られて、やがて目指す植物を見出せるはずである。名前さえ分かれば、それがどんな植物かを知ることできる。植物の世界に広がりを持たせるためにも、学校のホームページの一部を利用して、こんな花が今見頃を迎えていますというような情報も各学校から発信してほしいものである。

<月ごとに紹介している例>



5月編

シラン



シロツメグサ



アカバナユウゲショウ



ムラサキツユクサ



ニワゼキショウ



ハハコグサ



花壇に植えられたパンジーなども紹介している。

レモネード



パープル&イエロー



ローズ



ノーブル



スカイブルー



イエロー



また、草花以外にも、校地内の自然として、様々な生き物も紹介するようにしている。



2 生け花の実践(小田原市立泉中学校)

前述の学校ホームページ上の校地内四季の植物のコーナーでは、職員玄関に飾られる生け花も紹介している。本校(泉中学校)では、ボランティアとしてMOA光輪花クラブの皆さんが、定期的に花材を持って来校され、四季折々の花々を職員玄関の一角に生けていただいている。このクラブは、身近にある“花”を生けることを通して「美と出会い」「美を楽しむ」ことから、花のある暮らし、心豊かで生きがいある人生を生きる「人づくり」「幸せな家庭づくり」「美しいまちづくり」を目的としている。ステキな花との出会いによって、心がときめいたり、自然に優しい気持ちになったり、みんなの笑顔が学校の中に広がっていく取組となっている。



11月



12月



1月



玄関フローアでの作業風景



2月



3月



現在、MOA光輪花クラブによるいけこみ活動は、保育園・幼稚園・小学校・中学校・養護学校・養護施設・少年院・博物館・郵便局・消防署・駅のロビー・市役所・町役場・駐在所・病院・図書館・公民館などで行われ、訪れる人に癒やしを与えている。一輪の花がいかにか一種清新の潤いを覚えしむかという理念のもと、ボランティアとして活動している皆さんの息の長い活動に心より感謝申しあげたい。

3 「お花の日」の実践(小田原市立国府津中学校)

国府津中学校では、月に一回、「お花の日」を設定している。この日は、昼休みに全てのクラスの美化委員の生徒が集まり、永年ボランティアで来ていただいている先生にご指導を受け、四季折々の花が引き立つよう、心を込めて生けている。ホームページ上に公開された「お花の日」でのホッとする校長先生のコメントを紹介する。



【ある日の取組 その1】

給食・昼清掃と忙しい日程の中でも、その後の昼休みの時間を使い、各教室の花瓶に生徒自身がお花を生けている。スターチス、ベニバナ、アルストロメリアとお花選びに迷っていましたが、皆とてもきれいに生けることができました。生徒の皆さんの表情がとてもやさしい雰囲気、会議室は、さながら生け花教室のようでした。教室でも、水かえを生徒が率先して行っています。



【ある日の取組 その2】

今日(6月24日)は、いつものように、昼休みに各クラスの担当の生徒が花瓶を持って、会議室に集まりました。短い時間の中でも、好きなお花を選び、先生からアドバイスを受けながら自分で生け、大事そうに教室に持って行きました。ヒマワリ、カーネーション、カスミソウ、アルケミラモーリス……。花の名前を先生に尋ねる場面もあり、興味が高まっているのを感じました。生徒の皆さんの一番人気は黄色いヒマワリ。一輪だけでも、見ていると元気が出ますね!暑い日が続きます。教室での水替えもしっかりお願いします。



【ある日の取組 その3】

今日（7月9日）は、お花の日でした。いつもは昼休みに生けていますが、今日は午後三者面談を実施しているため、放課後13：30から生けました。ヒマワリの季節がやってきました。花瓶のまわりに元気があふれているようですね。スクールボランティアのお花の先生、いつもありがとうございます。



【ある日の取組 その4】

今日（9月16日）は、お花の日でした。いつものように、昼休みに担当の生徒が自分でお花を生けて、教室に持っていきました。明日からのテストが心配で、少し気持ちが落ち着かない人も、カーネーションやヒマワリの花でホッとできるといいなと思います。右の写真の花飾りは、ボランティアの先生手作りのものです。学校に咲いていたコエビソウを生けてみると、黒い台に赤い花がよく似合っています。とても風情があります。校長室廊下の壁面がとてもすてきになりました。先生、いつもありがとうございます。



【ある日の取組 その5】

今日（9月30日）、コスモスやラベンダーなどたくさんのお花を学校にいただきました。玄関や廊下、生徒トイレの入り口に生けました。揺れるコスモス、秋らしくてすてきです。いつもお花をありがとうございます。



【ある日の取組 その6】

今日（10月15日）は、今月のお花の日でした。玄関のお花、色とりどりの秋盛りです。また、今日は昼休みの開始に教室の花瓶を持ってきてくれた生徒が多かったので、皆、先生のご指導を受けながら自分でお花を生けていきました。最初は、ちょっと不安そうだったある男子、みるみるうちに笑顔になって、とてもすてきなお花を完成させました。きれいなお花を手にするだけで、何かが変わりますね。何事もチャレンジです。また来月も……。先生、いつもありがとうございます。



【ある日の取組 その7】

本日（11月19日）はお花の日でした。今月のお花は黄色いフリージアや、色とりどりのガーベラ、カスミンソウ・・・等々。職員玄関前に咲いているアワコガネギクやボランティアの先生が持ってきてくださったコスモスなども加え、華やかに飾ることができました。今月からは、本格的に生徒がボランティアの先生の指導で花を生けるようにやり方を変えました。昼休みの事務室は、ちょっとにぎやかな生け花教室でした。とても楽しそうに生徒たちがお花を生けてくれました。



【ある日の取組 その8】

今日（12月11日）は、「お花の日」でした。昼休みに、生徒の皆さんが、ボランティアの先生の指示を受けながら、自分たちで花を選び花瓶に生け、教室に持って行きました。今日は、先生から全クラスにかわいらしいサンタさんのオーナメントがプレゼントされました。今日の花は、スイートピーやデンファレなど春の香りがいっぱいです。先生、いろいろとありがとうございました。また、よろしく願いいたします。（写真は、会議室前の季節の飾りコーナーです。一番手前のオーナメントも先生からのプレゼントです）



花とお話をするように、花とのコミュニケーションを大切にして、その花をよく見て、花の美しさや自然の良さを発見していけたらいいですね。花の良いところを見つめるように、人の良いところを発見したり、違いを認めることに気付いたり、人とのより良い関係づくりへと生きてきます。花があることで場が和み、人との会話がスムーズにいくことを実感しながら、花を愛でて楽しむ気持ちを大切にしていきたいものです。

【ある日の取組 その9】

今日（1月21日）は、お花の日でした。昼休みに花瓶を持ってきた生徒の皆さんが、好きなお花を選び自分で生けて、教室に持って行きました。先月のお花が、まだきれいに咲いているクラスもあって、うれしかったです。先生、いつもご指導ありがとうございます。スイートピーの甘い香りが部屋いっぱいひろがって・・・今日はとても寒いですが、少しずつ春の足音が聞こえてきていますね。



【ある日の取組 その10】

今日（2月18日）は、お花の日でした。昼休みに、生徒の皆さんが、教室から持ってきた花瓶に自分でお花を選び生けました。スイートピーやガーベラ、ウメの花やモモの花など、春の香がいっぱいです。最後に生けていった1年生男子2名、少し照れくさそうでしたが、とても上手に生けられました。今の学級の仲間とも1ヶ月あまりで解散です。今のクラスの良い思い出を、たくさん作ってほしいな！



【ある日の取組 その11】

今日（3月11日）は、「お花の日」でした。明後日の卒業式には、教室や玄関のお花が色を添えて、卒業生を祝福してくれます。1年間、スクールボランティアとしてお花の指導をしていただいた先生、お世話になりました。心よりありがとうございます。お花を手に、先生から直接教えていただいた3年生にとって、とても貴重な体験でした。



このように教室をはじめ、校舎内に花があると、自然に優しい気持ちになります。これからも本校のよき伝統として、「お花の日」を引き継いでいきたいものです。

花持ちを良くするために

切り花は、10～11月頃・4～5月頃なら7日（1週間）～10日。寒い冬の間・12～3月頃なら、10～14日（2週間）。夏場・6～9月でも、4～5日くらいは楽しめる。

切り花の花持ちが低下する原因は、エチレンの作用による花卉の萎れ、生け水中の細菌増殖による導管の詰まり、エネルギー源としての糖質不足などさまざまである。切り花の花持ちを延ばすために使用される薬剤を、品質保持剤あるいは鮮度保持剤と呼んでいる。品質保持剤には、生産農家が出荷前に用いる前処理剤、バケツ輸送中に用いる輸送用処理剤、さらには消費者が用いる後処理剤に大別することができる。

その中で、後処理剤の主成分は糖質と抗菌剤である。糖質を含むことからフラワーフードと呼ぶこともある。切られた花は光合成により糖質をつくることがほとんどできないため、花卉中の貯蔵糖質が徐々に減少する。従ってこの段階の処理剤は、糖質を供給することと細菌の増殖を抑えるために使用される。つぼみが開花する過程では多量のエネルギーを必要とする。そのため、つぼみ段階で収穫するバラや、つぼみが多数存在するトルコギキョウなどでは、後処理剤により花持ちを著しく延ばすことができる（写真）。この後処理剤処理には、つぼみを開かせるだけでなく、色つきをよくする効果もある。

左：水処理、右：後処理剤処理（いずれも処理開始後15日目）



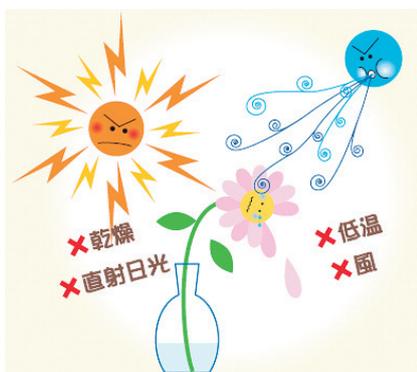
バラ切り花の花持ちに及ぼす後処理剤の効果

切り花を長持ちさせる三原則

その1 水を汚れにくくして、いつも清潔に

基本は、きれいな水に生けること。これは、バイ菌を防ぐための最も基本的な管理である。花瓶はよく洗い、清潔なものを使用する。購入したときは、必ず切り戻し、水はこまめに換える。6～9月はできるだけ毎日（長くとも2日に1回）、10・11・4・5月は3～5日に1回、12～3月でも、5～7日に1回は水を交換する。このとき、花器はもちろん、水に漬かっていた部分の茎もよく洗って「ぬめり」をよく落とす。切り口を常に新しくするため、ときどき切り戻す（茎を5mm～1cmほど、切って新しくする）。茎の変色があるときは、変色している所は既に腐ってしまっている。変色している所からさらに5mm～1cm上まで、切り戻すようにする。

花瓶に生ける切り花の本数は、できる限り少なくし、葉の枚数は極力少なくする。切って根っこなくなってしまう花は、本来吸いたい水の量を吸うことができない。この時に、すべての葉っぱがついたままだと、葉っぱから蒸発してしまう水の方が多くなってしまい、くったりしてしまう。これを防ぐには、『もさもさした葉っぱはすく＝出て行く水を減らす』こと！そして、『葉の裏側に霧吹きで水をかける＝吸う水を増やす』ことである。（花には水がかからないように気をつけよう）



その2 観賞する環境を考える

切り花は直射日光の当たらない涼しい環境に置く。ただし、冬の玄関先のようにあまりに寒すぎると、バラのような花は咲きにくくなる。乾燥し過ぎず、また風も当たらないような環境が好適である。特に冷暖房の風は厳禁である。常に光が当たる条件下では水あげが悪化する。

その3 品質保持剤を使用する

品質保持剤（フラワーフード）を説明書どおりに希釈して使用する。生け水がよほど濁らなければ水換えと切り戻しは不要である。品質保持剤が手に入らなければ砂糖と漂白剤で品質保持剤の代用にもできる。【生け水100ccあたり砂糖は小さじ1杯（1～2g程度）、漂白剤は2、3滴入れる】ただし、硬貨と中性洗剤を入れても花持ちを延ばす効果は期待できない。



4 近隣の公園整備の実践(小田原市立酒匂中学校)

本校では、具体的な行動目標に「地域貢献・勤労生産・奉仕活動の推進」があり、生徒のボランティア活動を積極的に働きかけ、地域貢献を推進するとある。また、「生徒会活動の充実」があり、生徒会活動や生徒のボランティア活動等の生徒活動をより一層活発化し、その活動を通して得た知識や経験が生きる力に結びつくように努めると記されている。

学校の近くにある浜公園が荒れた状態にあることに目を向け、何とか中学生の力で改善できないものかと模索し、まずは地域清掃を行う場所として、草取りや清掃を始めるところから取組がスタートした。そして、生徒会の活動費の中から、秋植え球根や肥料などを購入し、花壇を整備する取組に着手した。近隣の人たちの憩いの場としての公園を整備する中学生の姿を目の当たりにした地域の方々より、温かい励ましの言葉をかけてもらいながら、少しずつボランティアの輪が広がりを見せるようになった。

翌年、小田原市役所建設部みどり公園課が「身近な公園プロデュース事業」を行っていることを知り、申し込むことにした。

<身近な公園プロデュース事業>

■ どんな事業なの？

「あの公園のこの場所に花があればいいのに」とお考えであれば、実際にそこに皆さんの手で花を植えていただきます。皆さんの考えや意思で新たなものをつくって(プロデュースして)地域密着型の愛着のある公園へと導いていく事業です。

■ 市は「お手伝い」をします！

活動内容に合わせて、必要な物品をご提供いたします。花壇づくりであれば、土や肥料のほかに、道具(軍手、シャベル、灌水用ホースなど)を支給します。また、花の育て方、管理の仕方など、わからないことがありましたら、お気軽にご相談ください。

■ どこで、どんなことができるの？

○対象となる場所

小田原市内にある公園(児童遊園地を除く)、緑地、みどりの広場が対象となります。

○活動内容

花壇の設置、樹木の植樹

花壇、樹木の手入れ、除草

美化、清掃

その他、ベンチや遊具設置など自由な空間としての活用(要相談)



この情報に関するお問い合わせ先

小田原市役所建設部：みどり公園課 管理係 電話番号：0465-33-1583

公園プロデュース事業団体登録承認をされ、生徒会では、本部役員が広く生徒に呼びかけて、ボランティアを募り、浜公園の整備に活躍している。

公園を整備1・・・6月



公園を整備2・・・12月



小田原市みどり公園課の職員と花植を行いました。



大勢の生徒ボランティアが協力してくれ、花壇も綺麗に整備されたところにマリーゴールドを植えました。生徒たちは、綺麗になった公園で、地域の子どもたちが元気いっぱい遊ぶことを願っています。



夏休みに入り、毎日猛暑が続いています。浜公園の花壇も日照りが強く、土が乾いてしまうのではないかと心配していました。そんな中、生徒会役員や部活動で登校した生徒たちが日替わり当番を決め、浜公園の花壇に水やりをしていました。そのお陰で、花壇のマリーゴールドも枯れることなく、綺麗に咲いていました。公園内も、ゴミひとつなく綺麗に使われているようです。綺麗に花が咲いた公園で、地域の子どもたちが元気に遊ぶ姿が目に見えそうです。



小田原市みどり公園課の職員の方から指導を受けながら、生徒会本部役員やボランティアの生徒が花植をしました。綺麗な公園で新年を迎えることができそうですね。



学校の花壇も、PTAの美化委員の皆さんの協力により、綺麗に整備されています。本校は、ボランティアがいっぱいの学校を目指しています。

花壇づくり

花壇の種類

花壇のイメージは、曲線を多く使うとやわらかくて優しい感じになり、直線的に作るとモダンな雰囲気の花壇になる。デザインをするときは、円、三角、四角などの基本の形を組み合わせるが、模様の中に「葉もの」を加えると、全体が引き締まる。花壇には主に次のような種類がある。

寄植え花壇

花壇の中央部に草丈の高い花を植え、中央部の周りに草丈の低い花を植えていく花壇のこと。

ボーダー花

塀やフェンス、建物など境界線に沿って、手前に背の低い花、奥に行くほど順に背の高いものといった配置で立体的に花を植えていくもので、境栽花壇とも言う。

円形花壇

文字どおり円形に作る花壇です。立体的で見栄えが良い植え方は、中央部分に背丈の高い花を、外側の縁にいくにしたがって背丈の低い花を植えていく。

模様花壇

直線模様や唐草模様などのデザインで、1年中いつも花が咲いているように模様を描いて作る花壇で、主に1、2年草の草花を植える。春夏秋冬の季節ごとに、その時期に見ごろの株をつぎつぎに植えつけていく、大変美しい花壇である。

宿根草花壇

一度植えておくと、毎年芽を出して花を咲かせるという、まったく手間のかからない花壇である。宿根草には丈夫な種類が多くて、育てる手間もあまりかからない。しかし、絶え間なく花を見るには、季節ごとに咲く花の種類をあらかじめ検討しておく必要がある。

球根花壇

球根の草花は宿根草花と同じように宿根する種類で、花が派手なので花壇がたいへん華麗になる。ただ、球根は値段が高いため、種子でつくる花壇より費用がかかる。

花壇のつくり方での注意点

花壇づくりで大切なことは、植物の色や草丈を考えて、植える花を選ぶことである。そのときポイントとなるのが、花の開花する時期である。このことを考えて花を選ばないと、ある時期だけ花の開花がいつせいに集中して、後は何もないとてもさびしい花壇になってしまう。花壇づくりでは、なるべく花を絶やさなような植え替えのプログラムを組むことである。咲いている期間が長く、丈夫で手間のかからない花を中心にローテーションを組み、側面には花期の短い球根類などアクセントになる美しい草花を組み合わせるのが理想的である。品種ごとの開花時期を考慮し、球根植物・一年草・宿根草などを組み合わせて、できるだけ年間通して鑑賞できるように花を楽しめるプランを考えてみよう。

花壇に使用する1年草の開花時期の例

月	草花例			
1				
2	 <p>パンジー 11月～翌5月</p>			
3	 <p>ヒナギク 2月～5月</p>			
4				
5	 <p>スイートピー 4月～5月</p>	 <p>ワスレナグサ 4月～6月</p>		
6				
7	 <p>ホウセンカ 6月～8月</p>	 <p>センニチコウ 6月～9月</p>	 <p>ヒャクニチソウ 6月～10月</p>	 <p>ペチュニア 5月～10月</p>
8	 <p>アサガオ 7月～8月</p>	 <p>ヒマワリ 6月～9月</p>	 <p>サルビア 6月～10月</p>	
9				
10	 <p>ダリア 7月～10月</p>	 <p>コスモス 7月～10月</p>		
11				
12	 <p>ハボタン 11月～翌3月</p>			

花壇の土づくりとレイアウトが重要

植物を花壇に植え付けるポイントは土づくりとレイアウトである。土づくりは植え付けの最低1週間以上前を目安に行うようにする。植え付けは一度植えると植え替えは大変なので花が咲いたときをイメージして、植え込むのがポイントである。

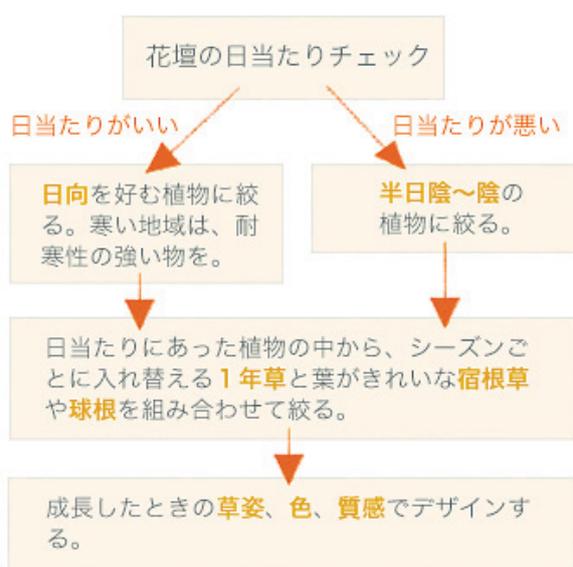
土づくりのポイント

- ・ 花壇となる場所を30cmくらいの深さまで掘り起こし、雑草の根や石ころを取り除いて土の塊を砕いておく。
- ・ 掘り起こした土1リットル当たり、バケツ1杯の堆肥と油粕3握り、骨粉1握りを加えてよく混ぜ合わせる。土の酸性度が高い場合には、中和するために土1リットル当たり100gの苦土石灰を加えるようにする。
- ・ 土と堆肥がなじむ期間（1週間以上）放置する。
- ・ 植える前に土をよく耕し、レーキなどでならして花壇をきれいに整える。

日向・日陰・半日陰と植物の組み合わせ

花壇のある場所の日当たりを確認する。日当たりの良い花壇には、日向を好む植物。日照時間が少ない、まったく日が当たらない花壇には、半日陰や日陰を好む植物を植えるようにする。花壇の近くに落葉樹があると春から夏は半日陰、秋から冬は日向というように季節によって日当たりが変わる花壇もあるので注意が必要である。

1年草だけの花壇は大きさにもよるが、シーズン毎に総入れ替えとなると労力もコストも少なくはない。そこで、宿根草や球根を組み合わせた花壇がお勧めである。宿根草は1年草に比べると花の咲く期間が短いものが多いが、葉色の美しいものや紅葉して落葉するもの、実のなるものなど1つの植物が季節によって違う姿を見せてくれる。年々株が成長するので花壇に風格のようなものを醸し出してくれる。

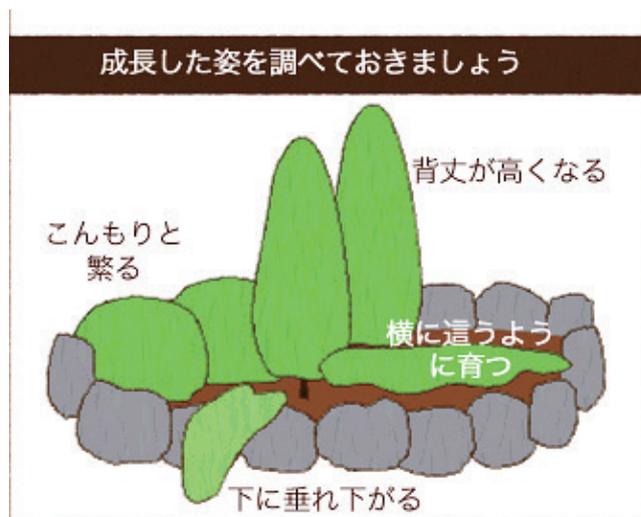


植物の種類の組み合わせ方



成長した姿を知る

苗を購入した時よりも、植え付けてから成長するにつれ草姿は変化してくる。縦方向に背丈を高く伸ばすもの、こんもりと繁るように広がるもの、横に這うように伸びたり、下に垂れ下がるものなどがある。成長した様子を知らずに植えると数ヵ月後には花壇全体のバランスが崩れてしまい美しくない。奥には背の高くなるもの、中間にはこんもり繁るもの、手前には下に垂れ下がるもの、というように植物の性質を良く知った上で選ぶことが大切である。



花の色合わせと植栽

苗を花壇の上にレイアウトしていく中で、何株くらい植えることができるのか、株と株のスペースはどれくらい開ければ良いかなどについては、目安として1㎡当たり20株前後と考える。4号・5号鉢（直径12～15cm）以上の大きい株ならば単独で植えるが、3号（直径9cm）ポットで株張りも小さなものなどは2、3株まとめて1箇所植えることで存在感を出すこともできる。株と株の間は12～15cm程度を目安とするが、成長して株張りが大きくなるものは余裕を持たせて植えるようにする。奥の方から宿根草や球根を植え、中央から手前にかけては華やかで長期間咲いてくれる1年草。花壇の縁取りには下垂タイプの宿根草や1年草を植えるなどする。一例として、春花壇定番の花というと、クロッカス・チューリップ・スイセン・ムスカリ・スノーフレイク・パンジー・ビオラ・ノースポールあたりが思い浮かぶ人が多い。鮮やかな赤・黄色・青紫と白、春の喜びでいっぱい華やかな印象を与える。実際に置いてみたら全体が見える位置に立って見直しをし、気になる箇所があれば置き直して、納得のいく植栽する。

種まきから始める場合・初心者は発芽率が高いものを

お店で買ってきた苗を植えて、花壇で大きく育てるのもガーデニングの楽しみのひとつであるが、自分で種から植物を育てるのも、また違った楽しさがある。種から育てれば、お店で苗をたくさん買ってくるより経済的であるし、園芸店などにはない品種の種も、通信販売で比較的簡単に手に入れることができる。なにより、自分で種から育てた苗を鉢植えや花壇に植えて楽しむことができたなら、とっても嬉しいものである。

花の種まきは、花壇づくりには大事な作業である。花の種をまいて発芽させ、それを成長させていく。花の種まきは、初心者は発芽率が高いものを選ぶのがコツである。種は、花によって、形や性質、大きさもそれぞれ様々である。一般に春に開花する植物は秋に種まきを、夏から秋にかけて開花する植物は、春に種まきをする。お店で売られている種袋には、その種のまき方や育て方、発芽適温など、要点がたくさん書かれている。“発芽確率”も書かれているので、初めて挑戦する人

は発芽率が高いものを選ぶと良い。用土は種まき用土が市販されているので、それを使うと便利である。種まき用のトレイなどもあるが、卵パックや牛乳パック、イチゴパックの側面を切り取ったものなどでも代用できるので自分が使いやすいものを使うようにする。小さな種をまく時は、ビートモスを平板状にした「ビートバン」がおすすめである。無菌で肥料も含まれており、発芽率が高いので、失敗が少ない。種をまいた後は、雨のあたらない半日陰の場所に置くようにする。発芽してきたら、少しずつ様子を見ながら、日向へと置き場所を移していく。子葉が開いて、込み合ってきたら、間引きをする必要がある。せっかく出てきた芽を間引いてしまうのは、「かわいそう」と思ってしまいがちであるが、丈夫な苗を育てるためには、しっかり間引きをしておくことが大切である。双葉が開いてしっかりしてきたら黒ポットに植え替える。ポットの土は、一般の園芸用の土でOKである。苗を移す時は、根を傷めないように心がけて用土ごと移すようにする。ここでも間引きが重要となる。双葉が開いてしっかりしてきたら、元気なものを1つ残して、後は間引いてしまう。ポットの中で元気に育ってきたら、いよいよ花壇にデビューである。

なお、「たねダンゴ」で気軽に花壇づくりをする方法もある。花の種をまぶした土を団子状にしたものである。肥料を含んだ土と種が一体化しているので、育ちやすく、雨で種が流れてしまう心配も少ない。たねダンゴづくりは子どもにも簡単で、手軽に植え付けを楽しめることも人気のようで、新しい種まきとして広がっており、作り方や植え付け方については別頁を参考にされたい。



植物を育てる管理法

水やり：庭植えの植物にはあまり水を与える必要はない。自然の雨に任せ、普段から乾かし気味に育てた方が、乾きに対する抵抗力がついてたくましく育つ。しかし、あまり乾きすぎると枯れてしまうので、天気が続くようなら様子を見て水を与えるようにする。

肥料：植え替えのたび、花壇の土に乾燥牛フンなどの元肥を混ぜるようにする。肥料の力を借りることにより、土をよい状態に保つことができる。

- ・1年草類＝花の咲いている期間が長い1年草には多くの養分が必要である。開花期間中には月に1回ほど肥料を与えるようにする。
- ・春に咲く宿根草類＝花が咲き終わると株が成長を始めるので、すぐに肥料を与える。
- ・夏～秋に咲く宿根草類＝花が咲く前に株が育つので、春に芽が出た時と5月くらいに1回ずつ肥料を与えるとよい。

花ガラ摘み：花が咲き終わったら花ガラを摘み取る。残しておくと見栄えが悪いだけでなく、種をつけてしまうと後の花つきが悪くなる。こまめに花ガラを摘み取っておけば、次々と新しい花が咲き、長い間楽しめる。

【参考】

花の不思議にせまる

https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/files/publication_fushigi.pdf

ガーデニング庭花壇の簡単な作り

<http://livingtucson.com/kadan-258.html>

素敵なお庭をつくりましょう

<http://iemaga.jp/niwadukuri/06.html>